

しち てん はっ き 七 転 八 起

校訓：自主・協同・創造

学校通信 NO. 17
令和6年 2月 29日

「感謝の気持ち」を伝えよう！

3月になります。1年間の締めくくりの月です。3年生にとっては、義務教育の締めくくりとなる大切な大きな節目です。

節目を迎えるにあたり、この1年間をじっくりと振り返ってみてください。コロナ禍で不自由な生活だった頃と違い、コロナウィルスが5類となり、不自由さが減りました。そんなときこそ、ありがたさが強く感じられたのではないのでしょうか。

これまでの不安と不自由な時の出来事が思い返されるのでしょうか。そして、それらの出来事のすべてで、自分を支えてくれたり、一緒に喜びや悔しさを分かちあったり、やさしく見守ってくれたりした人を思い出すでしょう。

『その人たちがいたから、その人たちのおかげで、今の自分がある。』そう思いませんか。人は日常を『あたりまえ』と思いがちです。しかし、コロナ禍の状況下で、『あたりまえ』がどんなに『ありがたい』ことかを身をもって感じてきたみなさんですから、真に『ありがたい』と思えるのではないのでしょうか。わたしたちの身の回りの『あたりまえ』に居てくれる人たちは、とても『ありがたい』存在です。

この節目の機会に、自分を支えてくれている人に、心から「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えてください。



「心の姿勢」が喜びを生む！

生きがいは「物事に前向きな意味を見いだすことができるかどうか」ではないでしょうか。世の中には、一見すると恵まれた境遇であるにもかかわらず、どこか満たされない思いを抱きながら毎日を過ごす人もいます。一方、困難の多い状況下でも生き生きと生きている人もいます。その違いは、一人ひとりの心の姿勢から生じるものではないのでしょうか。

例えば、大変な事を引き受けることになったときに、その事実をどのように受け止めるのか。「どうして自分がこんな面倒を……」と思いながら嫌々取り組む人と、「自分の力を試すチャンス」と考え、前向きに取り組む人とは、本人が味わうやりがいはもちろんのこと、出来栄も違ってきます。

生活の中に喜びや楽しみを見いだすことが上手な人は、いつも明るく、生き生きと過ごせています。そうした心の姿勢が、困難をも乗り越えて、より良く生きる上での力を生むのだと考えます。

あと少して、この三木東中学校を巣立つ3年生のみなさん、「何にでも、喜びや楽しみを見いだせる」明るく、生き生きとした活躍を願っています。

校長 高森 伸彦

1年生のスキー実習が行われました。

1年生は、2月6日(火)から2泊3日、ハチ高原でスキー実習を行ってきました。好天に恵まれ、大自然の美しさや厳しさを体験しながら、基本的なスキー技術も体得してきました。集団生活を通じて、自分と集団の在り方を学ぶとともに、相互の親睦が深められた実習となりました。

1日目は、スキーが初めての人にとっては、不安でいっぱいだったのでしょうか、恐る恐る実習に取り組んでいましたが、初日から林間コースに挑戦するなど、どんどん上達していきました。2日目になると勇気を出して果敢に挑戦する姿が頼もしく感じられました。最終日には、楽しくてもっと高いところから挑戦したいという声が聞こえるほど上達していました。3日間、お世話になったインストラクターやみやま荘のスタッフのみなさんに、しっかりと感謝を伝えられるようになっているところにも、成長が感じられました。

